

様式第2号(第10条関係)

会 議 結 果 の お 知 ら せ

- 1 開催した会議の名称 第3回佐伯市総合計画産業振興社・まちづくり市民会議
- 2 開催日時 令和4年11月1日(火) 19:00～20:15
- 3 開催場所 佐伯市役所 本庁舎 6階 大会議室
- 4 出席者
委 員：梶川里沙、河野辰也、川野幹雄、小谷晃文、高野正太、高野隆子、豎山恵子、長尾一生、波戸崎孝、藤原映治
オブザーバー：大分県南部振興局 地域創生部長 長谷部貴志
事務局：政策企画課 課長 末永健二、総括主幹 田村英朝、清田甲生
総合計画検討部会員
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 なし
- 7 議題及び結果
(1) 議題 第2次佐伯市総合計画後期基本計画(案)に対する意見等について
(2) 結果 事前配布資料により、事務局が資料説明をした後、質疑応答を行った。
- 8 会議の資料名一覧
(1) 第2次佐伯市総合計画後期基本計画(案)
- 9 問い合わせ先
担当課 総合政策部 政策企画課 政策企画係
電話番号22-4104 内線563

令和4年度 第3回 佐伯市総合計画産業振興・まちづくり市民会議結果について

日 時 令和4年11月1日(火) 19:00~20:15

場 所 本庁舎6階 大会議室

出席者 【委員】

梶川里沙、河野辰也、川野幹雄、小谷晃文、高野正太、高野隆子、豎山恵子、
長尾一生、波戸崎孝、藤原映治

【オブザーバー】

大分県南部振興局 地域創生部長 長谷部貴志

【事務局】

政策企画課 末永課長、田村総括主幹、清田
総合計画本部会議検討部会員

欠 席 【委員】

工藤克史、永田華香、村裕教雄、八木仁

【オブザーバー】

(株)大分銀行 執行役員地域創造部長 高橋秀樹

西日本高速道路(株)九州支社 地域共創担当部長 濱野昌志

傍聴者 なし

1 会長挨拶

川野会長が挨拶を述べた。

2 議事

川野会長が議長となり、議事を進行した。

(1) 後期基本計画案について

《主な質疑応答》

政策6 人が交流し、活力あふれるまちの創生

施策1 人権を尊重するまちづくり

【高野隆子委員】

臼杵市は、人権問題、人権学習に熱心に取り組んでいる議員がおり、パートナーシップ宣誓制度が県かでいち早くできた。佐伯市でもこれに取り組み、人権課題を抱えていても暮らしやすいまちを目指していただきたい。

【保健福祉企画課 古川課長】

現在、県への働き掛けに力を入れている。制度を導入している臼杵市、竹田市、豊後大野市、豊後高田市では利用者がゼロである。県域で制度ができれば他の市町村で手続きが可能になるなど、県に働き掛ける形で行っている。

施策2 男女共同参画のまちづくり

【主な意見なし】

施策3 市民協働のまちづくり

【主な意見なし】

施策4 「食」のまちづくり

【波戸崎委員】

以前のB-1 グランプリですごく違和感があった。市外の人が佐伯市で料理をして、地域の人の方が食べる。果たして佐伯市に何が残ったのか。よその人が料理をして売り上げを持って帰るイメージ。佐伯市にはその土地その土地の郷土料理がある。そこで市役所の駐車場に一堂に集め、イベントを行うことで食文化の伝承、観光事業につながる。

【高野隆子委員】

アジのまる寿司、ごまだしうどんなどあるが、近所にもコンニャク作り、酒まんじゅうの上手な方がおり、そういう方の出番があるといいと思う。実際に作っているところを見たい。高齢者の出番が増えたとよい。

【ブランド推進課 戸高課長】

常に聞くような、協働に対する意見をいただきまして大変ありがとうございます。佐伯市もあまべの郷土料理など冊子も作っています。「なちゅらるさいきっちゃん」という番組を作り、色々な料理を紹介している。この郷土料理に焦点を当てた番組にも取り組みたい。

【河野委員】

市のほうで郷土料理のワークショップを行ってくれると思う。私もウェブ上で県南の郷土料理を大分学研究会と一緒に全国発信している。皆さんに知ってもらえるよう情報発信に努めたい。

【梶川委員】

私も金ちゃんの土づくりに関わっており、非常に時間と労力が掛かる。今講師として1人いるが、農業もしながらかなりの労力があると感じている。講師の資格も1日で取れるので養成も一つの方法だと思う。SDGsの観点からもサポートしてもらえるとより広がるのではないかな。

【ブランド推進課 戸高課長】

取り組んでいきたい。

【河野委員】

佐伯は食文化、食観光に特化しているが、このままだといつか駄目になると危機感がある。時代は流れているのにメニューが変わっていない。ガチャ等、一時的には食の観光客が増えるが、受入れ体制が出来てなかったらリピートしてくれない。根本的には味である。ぜひ料理人が勉強させてもらえる仕組み、料理人が一つの目標に向かってコミュニケーションが取れる。そういうまちづくりができればと思う。

【ブランド推進課 戸高課長】

以前はバス事業に取り組んでいた頃は色々な料理人を呼んで、研究会をやった経緯がある。今後は検討していきたい。

施策5 移住定住の促進

【波戸崎委員】

移住者から見ると、身寄りもない、どういうまちかもわからない中での売買はハードルが高い。なるべく賃貸の物件も増やすような取組を推進していただきたい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

先日、東京の相談会でお試し来た方がいたが賃貸希望だった。空き家バンクではなく、市内の不動産屋の物件を契約し移住が決まった。要望にも添えるよう努力したい。

【川野会長】

大分県空き家マッチングチームの移住定住担当をしているが、大分県内の移住希望者の相談を受けているが、1年から2年程度、賃貸で住み、その後売買する住居を探したいという希望者がほとんど。よりスムーズな地域に入り込みができるようぜひお願いしたい。

【河野委員】

佐伯に移住するきっかけは何か。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

釣り好きの方が趣味も兼ねてという方が多い。発信する際に釣りができることを積極的に発信したい。また、オーガニックの関係で食のまちも浸透してきている。

【河野委員】

移住してきた方が店に食べに来るが、スーパーの寿司でも美味しいと言う。旦那さんは釣りが好きでも奥さんは友達がいない。その際に桜ホールのワークショップを薦めている。他の自治体にはない。そこで佐伯の郷土料理を学び佐伯市に定住してもらいたい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

桜ホールのワークショップは、移住定住をPRしたことはなかったが、非常によい取組だという認識ができた。これからPRしていきたい。

【小谷委員】

ニーズとしては短期で借りたい方が多く、対して貸す側は管理義務など大変といったミスマッチが起きていると思うが、何か手立てはあるか。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

空き家バンクは移住者への特化した取組ではあるが、基本的には、空き家対策の一部である。空き家で利用できるものは空き家バンクに登録、老朽化しているものは管理義務が発生し早めの解体を薦めるなど、空き家対策事業という面がある。当然空き家バンクは移住者向けの物件となる。方策としては、所有者にできるだけ両方の登録をお願いすることである。

【豎山委員】

移住者が実際に佐伯で住むことに住みやすさを感じているのかといったフォローは

あるか。

私も移住者で県内全て見て佐伯に住んでいるが、日田のバスツアーは参考になった。既に移住している方から情報が貰えた。

【コミュニティ創生課】

施策を使って移住された方について、アンケート調査したが非常に高い割合で満足しているとの回答であった。その後の追跡調査でも転出した方は、学生で卒業後に転出した数人で、世帯として入ってきた方の転出はない。また、移住された方の交流会を定期的に開いている。移住者同士のつながりなども話してもらい、出た意見を今後の施策に生かしたいと考えている。

【川野会長】

協力隊の任期前の退任率 32.2%だが、その方の中の定住率はどの程度か。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

把握していない。

【川野会長】

臼杵市が調査しているが、やはり 3 年間満期満了できる方がより増えるほど定住率が上がる。途中でドロップアウトしても定住してもらえる人の率を上げていくことも大事である。これ何が言えるかということ 3 年間その地域で本当に楽しくやれたから 3 年間迎えられた。ということはその先も、その地域にいてくれる率が上がる。32%が悪いわけではなく、途中で何か縁があつて、その地域で生きていることになるので、それを追って研究するのもいいと思う。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

以前は、任期を途中で終わって転出されてる方が多いが、ここ最近、期間満了前に辞めた方も佐伯市に定住する方も多い。具体的な数字を出して新しい根拠としたい。

【梶川委員】

協力隊を募集する際にターゲットを明確にしなければ 3 年間チャンスがあるのにもったいない。移住相談会があると思うが、職員だけでなく、定住している方に一緒に話をしてもらえるとイメージが持ちやすい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

協力隊の方の募集は、市の担当課が地域課題を担ってくれる方を中心に募集していたが、ミスマッチが起こるケースもあった。これからは地域課題の解決のための人材ということも踏まえながら 3 年後、定住し先が見えることも一つの大事な視点である。

【川野会長】

移住定住施策は重要な施策の柱であると記載されているが、職員数が減っている。今後 5 年間はどのように取り組むのか。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

財政状況が厳しい中、職員の削減は、一つの大きな課題である。ただ重要な施策であることは間違いないので少ない人数でも頑張りたい。

【川野会長】

ある意味選択と集中もしながら、民間活力を使っていただきたい。OB の定住者もいるので空き家の案内をアウトソーシングなど。民間に対価を払い、民間を育てながらうまく分業ができたらと思う。そうすると行政の時間ができ、本来業務ができる。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

移住定住の業務は専門性があるので、担当者によって質が変わったりということが考えられるセクションです。やはり専門的に担っていただける中間支援組織も視野に入れながら人材を育てていかなければならないと考えている。

施策6 国際化の推進

【川野会長】

グラッドストーン市との姉妹提携はいつまでか。目的を教えてください。

【観光課 田中課長】

提携から 25 年経過している。学校交流での訪問、市民を募集しての訪問を行っていたが、事業の見直しで市民の訪問は実施していない。今は学校交流を主に取り組んでいる。

【長尾委員】

外国人技能実習生を雇用しており空き家を賃貸で活用しているが、外国人という理由で年々借りることが難しくなっている。外国人の増加が見込まれる中で、その理解を深める必要があると思っている。イベントへの参加などで理解を深めてもらうよう取り組んでいるが、民間と一緒に活発に動く必要があるのではないかな。いろいろなところで動きはあるが、一貫性がない、個々の活動を知らないことがあるので、まとまる形があるとよい。まずは今住んでいる人がいかに暮らしやすく、佐伯に残ってもらう、起業してもらう、仕事してもらう。移住定住者もずっと暮らしてもらうことも可能なのでその可能性を考えながら、まちづくりを進めてほしい。

【観光課 田中課長】

観光面では、桜まつりに本田重工の実習生が参加し、評判が良かった。来年も国際化を広げる話をしている。ベトナムの方についても、桜まつりの出店やステージ参加の募集も行いたい。計画の中には具体的には書いていないが、実際の事業では取り組んでいきたい。

施策7 市民サービスの充実

【主な意見なし】

施策8 新たな地域コミュニティの構築

【川野委員】

佐伯市地域審議会の会議に出たが、課題感や指標がこの部会ではないしている内容だったり、どの地域も課題感が高齢化、買物が困っていることからやりたいことが出ており、委員も二重三重の同じ人がおり、この状態を解消したいのが一つ。個者最適と全体最適があるように佐伯市全体的に対応しなければならないことがある中で、各地域で本

やるべきちょっとした違い。一段階上の全体でもやったほうがいいのかという議論する場がその場にあり、その時間や労力をもう少しスリム化できる方法を検討し、5年後、第三次総合計画策定にいかしてほしい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

総合計画前期基本計画の策定に当たり、市民意見の反映のため実践者の意見を聴くために会議を行っていたが、だんだん重なる委員が増えている。新たな地域コミュニティ組織は、今まで区でやってこれたことが、人口減少や付き合いの希薄化により今までどおりにできなくなってきた。それを広げ、公民館単位で見れば人もいる、効率化もできると取り組んでいる。組織が全域に立ち上がれば、少し時間は掛かるが重複している部分も解消できると思う。

【川野会長】

縦か横か斜めぐらいの3方向の串刺しができれば、被りもなくなると思うので、そういう感じのイメージで。見えるかして被りを削除する手法を検討してほしい。

【河野委員】

佐伯に釣り客はどのくらい来ているのか。釣り客をうまく攻めるといいと思うが。

【観光課 田中課長】

イベントや食観光に取り組んでいるが、実際、統計データを取れていない。釣り客がどのくらい来ているのか、どの程度、地域でお金落としているのか。データ分析をして取り組むことが必要なのでしっかりやっていきたい。人流データの集約ができるので釣り客をデータ把握できれば調べてみたい。

【川野会長】

釣り客はインターから降りて釣具店で餌を買って釣りに行くのが一連の流れ。そのマーケティングで宿泊を狙ったのがAZである。移住者のヒアリングでも佐伯は釣りの聖地と言われているので大事にしていきたい。

（２）次回の市民会議の開催日について

調整の結果、11月18日（金）19時から開催することに決定した。

（３）その他

特になし